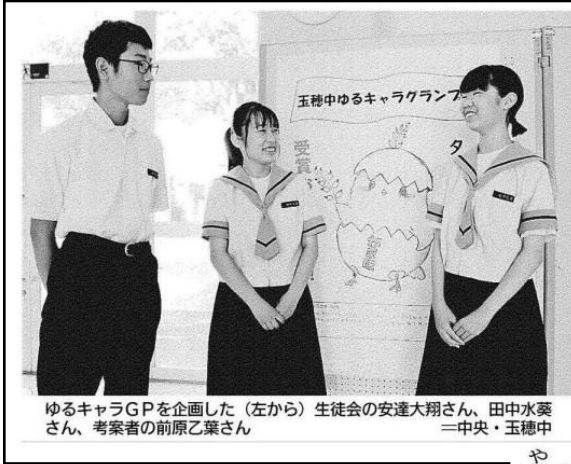


年 組 名前:

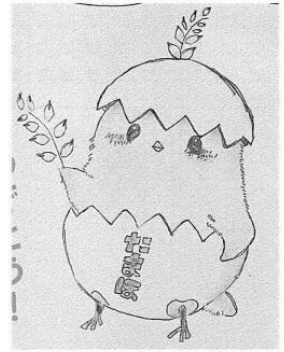


ゆるキャラG.P.を企画した（左から）生徒会の安達大翔さん、田中水葵さん、考案者の前原乙葉さん
—中央・玉穂中

ゆるキャラ 学校に活気

中央・玉穂中 全校から募集、一体感

中央・玉穂中生徒会は、学校を活気づけようと、ゆるキャラ「たまぴよ」をつくった。卵から生まれたヒヨコをモチーフにしたキャラクターで、校名にちなんだ稲穂を手にしたデザイン。掲示物などに活用していて、生徒会メンバーは「学校のシンボルとして長く愛される存在になってほしい」と話す。
〈杉原みずき〉



玉穂中生徒会がつくったゆるキャラ「たまぴよ」

生徒会は本年度、「ランチをチャンスに」をテーマに活動している。新型コロナウイルスの影響で学校生活にさまざまな制限がある中、「みんな参加できる取り組みで愛校心を高めたい」（田中水葵生徒会長）と「玉穂中ゆるキャラG.P.（グランプリ）」を企画した。

5月末に全校から募集し、310点が寄せられた。学級役員と生徒会で9点の候補を選考。全校生徒と教職員による投票で、2年生の前原乙葉さんがデザインした「たまぴよ」が選ばれた。たまぴよは卵の殻を破って生まれたヒヨコが、稲穂を手に行っている。稲穂は「学校生活や行事をサポートする魔法の稲」（前原さん）という。殻に学年カラーの3色で「たまほ」の文字が入っている。生徒会では、生徒会よりも校内掲示物にたまぴよを使う。ついでにほか、図書委員会がおりにデザインするなどして活用。今後、うちわなどのキャラクターグッズ製作を検討している。「学校のシンボルができてよかった」とG.P.実行委員長の前原さんは「多くの人に知ってもらってほしい」と語り、田中会長は「募集や投票の時は生徒の間でゆるキャラが話題になっていて、学校の一体感が持てた。いずれは着ぐるみもつくりたい」と話している。

(2022年7月21日付 山梨日日新聞16面)

問1

玉穂中生徒会メンバーは、ゆるキャラ「たまぴよ」が、どのような存在になってほしいと思っていますか。

.....

.....

.....

問2

生徒会と図書委員会は、「たまぴよ」をどのように活用していますか。

生徒会

図書委員会

問3

あなたの学校を活気づける企画を、考えてみてください。

.....

.....

.....